

## ごみ収集車で爆発・火災事故が発生！

中里学区の燃えないごみ収集日（4月3日）に、収集したごみが爆発し、発火する事故が発生しました。

原因は、スプレー缶やガスライターに残っていたガスが、ごみの積み込みの際に圧縮されて漏れ出し、金属同士の摩擦により引火し燃え出したものと考えられます。

幸い、市民や作業員にけがはありませんでしたが、今回のごみの中からは中身がまだ入っているカセットコンロ用ボンベも見つかっており、場合によっては大事故になっていた可能性があります。

二度とこのような事故を発生させないために、ごみを出すときには「ごみカレンダー」や「ごみ分別名人」でご確認のうえ、適正なごみ出しをお願いします。



### ◎危険物の排出方法

#### ■ガスライター

必ず中身を使い切るか、ガスを出し切ってから燃えないごみとして出してください。

#### ■カセットコンロ用ボンベ、スプレー缶

中身を使い切った上で、風通しのよい場所で穴をあけ、空き缶・金属類の収集日に赤色の専用コンテナに排出してください。

### ◎ごみ袋には記名しましょう

市では、ごみ袋に記名してごみ集積所に出していただくことにしています。

これは、ごみの適正分別について、市民に協力いただき、責任をもって排出していただくために実施しています。

ごみ集積所へ誤った出し方をした場合は、出されたごみ袋に警告シールを貼り付け、収集できない旨を自治会に連絡しています。

適正なごみの排出に皆さんのご協力をお願いします。

### ◎ごみ処理の経費について

市のごみの収集・運搬・処理に要する年間経費は、8億円を超えています。その内、ごみ袋代金等でいただいている手数料の合計は、年間約1億円です。その差額約7億円は、皆さんの税金により賄っています。分別収集ができていないとその分処理に要する経費が増えることになります。その結果、限られた財源の中で、他の市民サービスに充てる財源が減ることにもなりかねません。ごみの減量化に取り組んでいきましょう。



#### ◆環境課

☎ 587 - 6003

FAX 587 - 3834

### 毎月第4土曜は 廃食油回収の日

6月22日午前10時～正午

回収会場：市役所別館横電話ボックス付近  
回収物：廃食油、牛乳パック、アルミ缶  
問環境課☎ 587 - 6003、エコロジーマーケットやすの会・増村☎ 586 - 1441

### 里山・森・里地・びわ湖の 「水」フォーラム

市内の山からびわ湖にいたる水環境保全の取り組み活動報告会を開催します。水環境に関心のある人は、ぜひご参加ください。

事前申し込みは不要です。

- ・日 時…6月30日(日)午後1時～3時30分
- ・会 場…コミセンなかさと大ホール
- ・内 容…水源の山・森・川・田畑・びわ湖の水環境保全に取り組む市民団体や自治会の活動事例の報告
- ・主 催…環境基本計画推進会議里川づくり委員会
- ・参加費…無料

# 歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

(105)

【休館日】月曜日 市民は入館無料

◆テーマ展「昭和のくらし—むかし・なつかし・モノがたり—」／6月30日(日)まで

◆市史・郷土史講演会「近世検地と村・百姓」／6月29日(土)午後2時～4時

講師…渡邊忠司さん(佛教大学歴史学部教授)

◆第5回弥生の森写真展「ふおれすとフォトギャラリー」／6月15日(土)～9月1日(日)

※作品募集中(8月25日(日)まで)



中主小学校旧校舎(『中主小学校創立50周年記念誌』より)

## 昭和のくらし展く昔の写真よりく

テーマ展「昭和のくらし」では、昔の写真や民俗資料により、暮らしの風景や生活用具を紹介しています。今回は、その中から2枚の写真を見てみましょう。

### 中主小学校旧校舎

中主小学校の旧校舎は、前身となる「中里村立中里尋常・高等小学校」の新築校舎として1935(昭和10)年に完成しました。竣工時の棟札が学校に伝えられています。

す。のち、昭和24年に「兵主村中里村学校組合立中主小学校」、昭和30年に中主町立、平成16年に野洲市立の小学校となり現在に至っています。

この校舎は、ウィリアム・メレル・ヴォーリズ(1880～1964)が創設したヴォーリズ建築事務所設計の設計になるものです。「ヴォーリズ建築」とよばれ、近代建築として注目されており、戦前は近江八幡を拠点に活動し、滋賀県の各地に数多

くの名建築が今なお残っています。

中主小学校の旧校舎は、木造2階建て、瓦葺きのモダンな建物でした。正面には、玄関ポーチの上に窓があり、その上に校章が掲げられています。当時の中里村が立派な学校を建築し、教育にかける地元の人々の並々ならぬ熱意がうかがえます。惜しくも1985(昭和60)年に解体されましたが、この学び舎ですごした卒業生の皆さんの思



野洲町合併祝賀パレード  
1955(昭和30)年・藤村和夫氏撮影

### 野洲町合併祝賀パレード

い出は、いつまでも心に刻まれていることでしょう。

1955(昭和30)年4月1日、篠原村と祇王村と野洲町が合併し新町「野洲町」が誕生しました。この年は「昭和の大合併」といわれ、中里村と兵主村が合併して中主町となり、その2年後には中洲村の吉川・喜合・菖蒲が中主町と合併しています。

野洲町の合併祝賀として、パレードや駅伝、競馬などさまざまな記念行事がにぎやかに催されました。写真の様子は、パレードの一行が朝鮮人街道を進み、野洲市富波甲を

通っているところです。趣向を凝らして飾り付けたオート三輪がゆつくりと走り、沿道には付近の人たちが出迎えています。当時の街道や家並み、人々の服装や表情が、のどかなまちの姿を感じさせます。この頃は戦後10年、野洲町の人口は1万4134人でした。写真のなかの風景の一つひとつが、古きよき時代を物語っています。

昔の写真は、往時を知る人にとっては懐かし、当時を知らない人にも時代の移り変わりや地域の歩みを伝えてくれます。身近な歴史のひとつに触れてみてください。

(博物館学芸員 行俊勉)